

52 在フランス日本国大使館（2021年4月30日）



在フランス日本国大使館は、パリのエトワール凱旋門から放射状に走る道の一つであるオッシュ通り（Avenue Hoche）にあります。今年は、在フランス日本国大使館の歴史が始まって150年になります。

1871年、日本の常駐外交官として初めてフランスに派遣された鮫島尚信代理公使が、現在のオッシュ通り（当時の名称は、ラ・レーヌ・オルタンス通り rue de la Reine Hortense）に代理公使館を開設しました。現在の場所とは異なりますが、在フランス日本国大使館の歴史はオッシュ通りで始まりました。その後、現在のマルソー通り（Avenue Marceau）（当時の名称は、ジョゼフィーヌ通り rue Joséphine）に移転して、大使館になりました。

1906年、大使館はオッシュ通りの現在の場所に移転しました。1919年に大使館の事務所がパリ16区（ラ・ペルーズ通り、続いてグルーズ通り）に移転し、オッシュ通りの建物は大使公邸として使用されました。1940年、ドイツ軍のパリ侵攻を避け大使館は地方を転々とし、最終的にヴィシーに移ります。戦後、オッシュ通りの大使公邸も



Ancien Résidence de l'Ambassadeur par OGISU Takatori
荻須高德「旧公邸」

グルーズ通りの大使館事務所もフランス外務省に接收されますが、1951年にオッシュ通りの建物が返還され、そこにまず日本政府在外事務所として戻ったのち、サンフランシスコ講和条約発効とともに1952年に大使館（大使公邸・事務所）を再開、その後グルーズ通りの建物も返還され大使館事務所は同所に移り、オッシュ通りの建物は大使公邸として使用されます。そして、1969年から70年にかけて大使公邸が移転してオッシュ通りに大使館事務所が戻り、現在も同じ場所外交活動を続けています。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

大使館は、フランスの社会情勢を日本に報告したり、フランスの方々に日本のことを知ってもらうための情報を発信しています。フランスで暮らす日本人のパスポートの発給や日本へ渡航する際にビザ（査証）が必要な方のためのビザの発給といった領事業務も行っています。

2018年から2019年にかけて、フランスで日本文化を紹介する大規模イベント「ジャポニスム 2018」が開催されました。これの対となる行事として、今秋から日本では「ラ・セゾン（日本におけるフランス年）」が開催される予定です。スポーツの分野では、2019年に日本でラグビーワールドカップが開催され、次回2023年はフランスで開催されます。この夏に東京で開催される予定のオリンピックとパラリンピックの次回開催地はパリです。日本もフランスも文化やスポーツが盛んな国で、日本にとってフランスは大切なパートナーです。

在フランス日本国大使館は、これからも日本とフランスの良好な関係が更に発展するように、また在留邦人の方々が安心してフランスで生活できるように努めていきます。

